

〈 苗代・田植 〉

(61~63) 高低差の少ない中央・タイでは簡単な装置で揚水する。いまの揚水の主流は、この2種類のポンプであり、実によく活動している。

(64~80) 苗代は短冊にしたものや、一区全面に撒播したものなどいろいろである。播種後20~30をすぎると植付けられる状態になるが、一般には雨が降らないと水田の植付け準備ができないから、ひたすら雨を待つ。雨が降ると一斉に耕起から代掻き、均平の作業をやって植え付ける。植えるときはすでに30~40cmには生長している。これを手でわしづかみにして抜取り、根についた土は足に打ちつけて、たたいて落し、木台で根元を揃えて竹ヒゴで束ねる。ここで葉先を20~30cmに切断して植える水田に運ばれる。

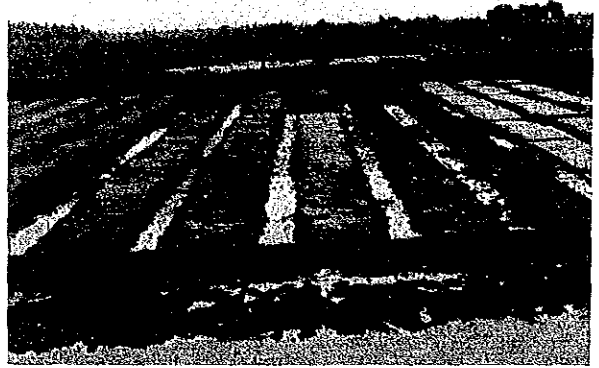
田植えは共同でやる場合もあるが、大抵は個人の家族労働が主体で大きな経営では周囲の農家から労力を雇う。この時期には遠く出稼ぎに行った若者も帰ってきてにぎやかになり、又バンコクや他の都会の情報が交換される。小学校もこの期間約1ヶ月は農繁期休校に入り、それぞれ田植えの手伝いをする。

(81) 植付後、1週間から10日でカニにより根を食害されて欠株が出るので、その補植も田植えの大きな仕事のひとつである。

(82~84) 労力が有り余っているといわれるタイでも、農作業に従事するのは次第に嫌われてきたのか、他人を雇うのは仲々大変である。東北・タイや、北・タイは未だしも、中央・タイ、バンコク周辺では労力事情は5~6年前に比べると全く変わってきている。いつでも声をかければ来てくれるというのは昔の話である。こうしたことで能率の悪い田植えをなんとか機械化したいという要望は強い。いま各地で日本式の田植機による適用化のテストが行なわれているが仲々問題が多い。技術的な問題と共に価格が問題にされる。しかし、やろうとすれば利用はできる。田植機を利用するには、機械そのものの改良と利用条件を改めていくことが重要だ。それは機械に農法を順応させていく農法改良である。



(61) 揚水ポンプ (Rayong 中央(3.16))



(64) 苗代播種 (Kalasin 東北(2.1))



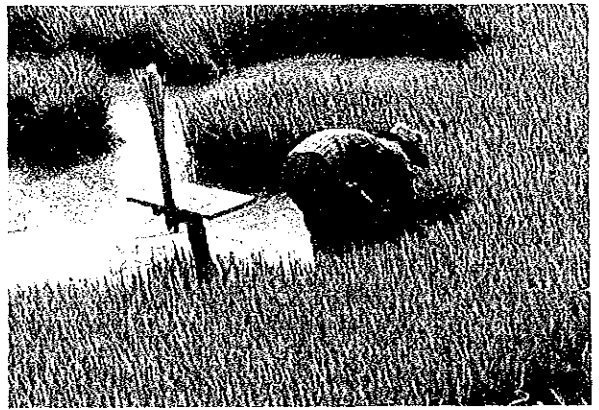
(62) 揚水ポンプ (Rayong 中央(3.16))



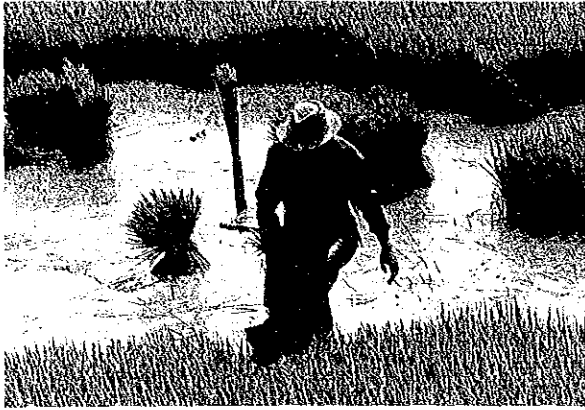
(65) 苗床 (Chiang Rai 北部(1.2))



(63) 揚水ポンプ (Suphan Buri
中央(3.15))



(66) 苗取り (Ang Thong 中央(3.23))



(67) 苗の泥落とし 足に苗の根を打ちつけて土を落す (Ang Thong 中央 (3.23))



(70) 苗運び (Ang Thong 中央 (3.23))



(68) 苗の結束 (Ang Thong 中央 (3.23))



(71) 苗取り (Chaing Rai 北部 (1.2))



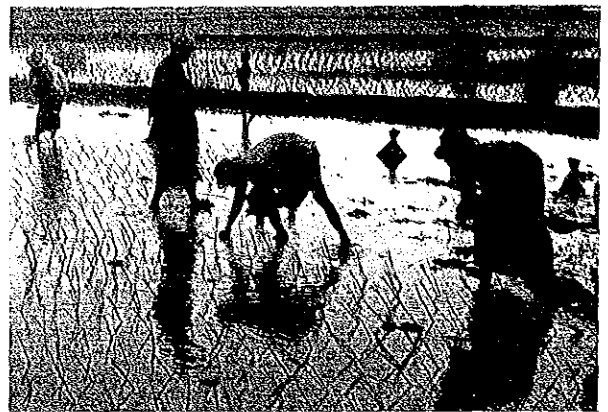
(69) 苗の根元を揃える (Ang Thong 中央 (3.23))



(72) 葉先を切る (Kalasin 東北 (2.1))



(73) 苗取り風景 (Kalasin 東北(2.1))



(76) 植付け (Phichit 北部(1.9))



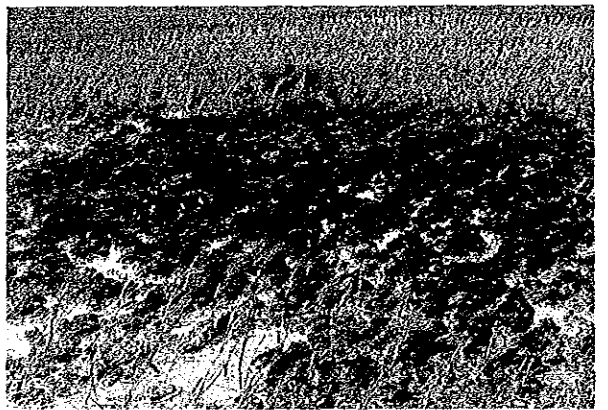
(74) 苗打ち (Ang Thong 中央(3.23))



(77) 植付け (Chaiya Phum 東北(2.3))



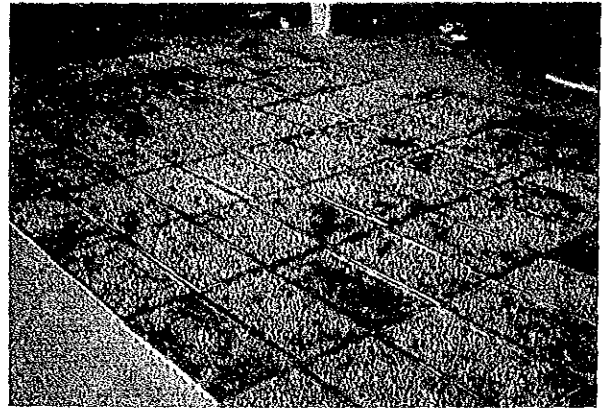
(75) 植付け (Nakhon Phanom 東北(2.4))



(78) 植付け 水のない部分だけ残してある
(Chaiya Phum 東北(2.3))



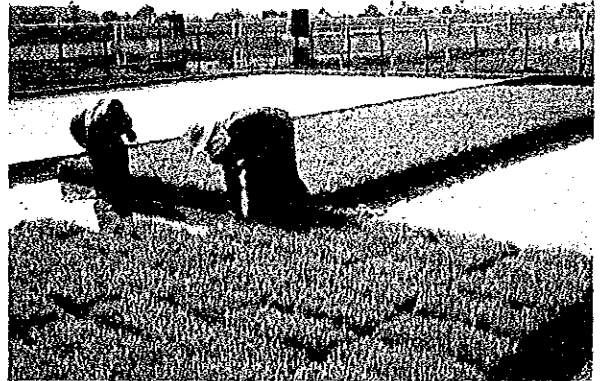
(79) 田植風景 (Chain Rai 北部 (1.2))



(82) 田植機の実験(育苗) (AMC, of Kasetsart Nakhon Pathom)



(80) 田植シーズン (Chain Rai 北部 (1.2))



(83) (育苗) (Nakhon Pathom 中央 (3.9))



(81) 補植 田植えして7~10日後、根元をカニが食害してしまう、その後に補植する (Sakhom Nakhon 東北 (2.5))



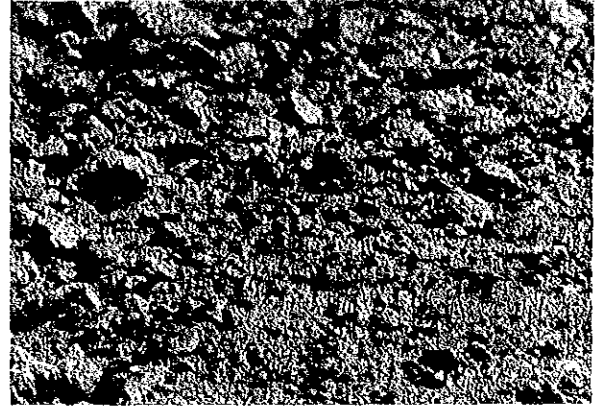
(84) 田植機の実験 (AMC, of Kasetsart Nakhon Pathom)

(85~89) 直播栽培も亦盛んである。苗代一苗取り一田植といったやり方だけが米作りではない。直接種子をまいてそのまま突らせる直播栽培が急速に増えている。とくに中央・タイの二期作地では、連続して作付ける忙しさを省力技術でカバーするという考え方が強く、乾季作も雨季作も直播でとおす農家が多い。湛水直播では、種子を播くと一旦水を落とし、土の表面を乾かすと根の張りが良く、生育も順調だということである。又浮稲地帯では乾田状地で種子を撒き、発芽生育中に次第に氾濫水が増え、水位の上昇と稲の生育が併行して実りの秋を迎えてくれる。

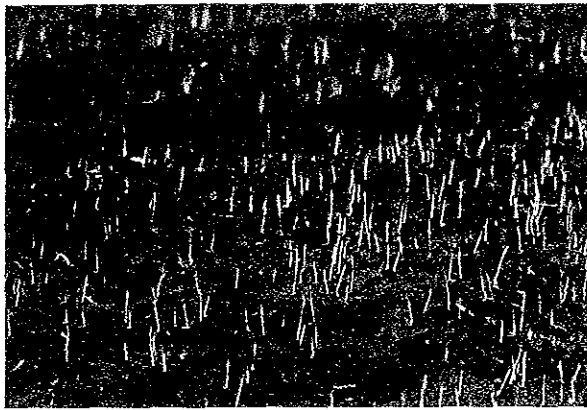
(90) タイの稲作はその大部分は植付けと播き付けが終ると、刈取りまでほとんど手をかけないのが多い。しかし、最近では病害虫の防除に力を入れ、雑草防除にも目を向けるようになってきている。浮稲地帯では舟に乗って薬剤散布も行なわれる。



85) 洪水直播 (Nakhon Pathom
中央(3.9))



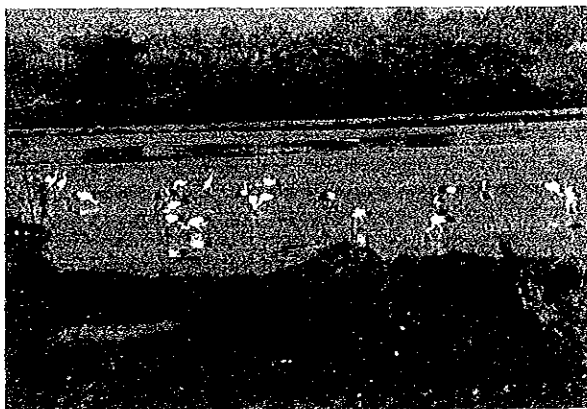
86) 乾田直播の発芽 (Nakhon Si Thammarat
南部(4.4))



87) 洪水直後の発芽 (Nakhon Pathom
中央(3.9))



88) カニによる被害 (Si Sa Ket
東北(2.11))



89) 渡り鳥「鶴」 (Nakhon Pathom
中央(3.9))



90) 薬剤散布 (Suphan Buri
中央(3.25))

(91~102) 9月から10月、雨季の終りを告げるように大雨がやってくる。

Ayuthaya を中心とした浮稲地帯は丁度中央平原の鍋底様の地形をなし、中央平原の雨水はもとより、遠く北・タイ、東北・タイからも流れ込む場所である。

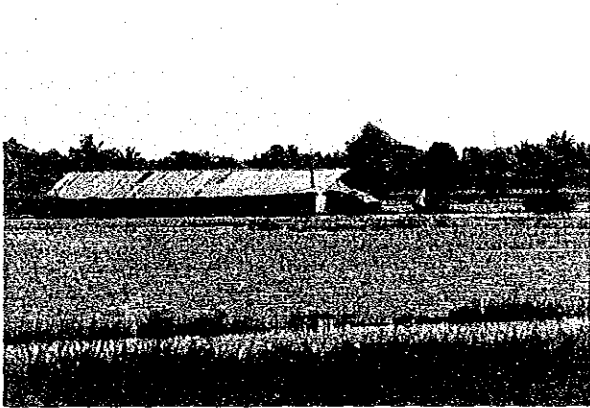
ついこの前までは畦畔で仕切られた田んぼは、いつのまにか大きな湖沼のようになって、住民の足は小舟に依存した生活に変ってくる。稲の中を小舟で渡り、ときには釣竿をたれて魚を釣る姿も目に入る。この水位は深いところで2~3 mにもなるし、水に閉じこめられた人々はできるだけ外出しないで、家の中で水のなくなるのを待っている。1983年は40年とか60年ぶりの洪水で、バンコク市内もいたるところで滞水し、道路の水はタイヤが没するほど深くなり、エンジンに浸水して自動車整備工場が繁盛するという現象もみられた。



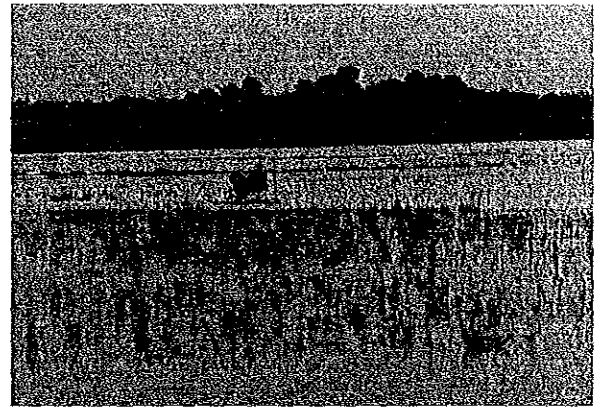
(91) 浮稲地帯 氾濫水がやってくるとAyuthaya
を中心とした浮稲地帯は全く一変し大きな
湖沼が出現したと同じである
(Ayuthaya 中央(3.1 4))



(92) 隣の家に行くにも舟で行く (Pathom
Thani 中央(3.1 1))



(93) 豚舎も避難する (Pathom Thani
中央(3.1 1))



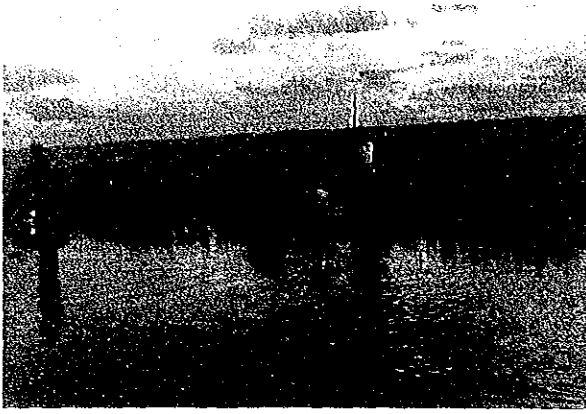
(94) 舟は雪国のスキーのようなもの
(Pathom Thani 中央(3.1 1))



(95) 舟が唯一の交通手段であり、舟がなければ
何処にも外出できない (Pathou Thani
中央(3.1 1))



(96) ポールは半分以上水没する
(Sing Buri 中央(3.2 5))



(97) 稲の中を舟は自由に出入りする
(Ayuthaya 中央(3.14))



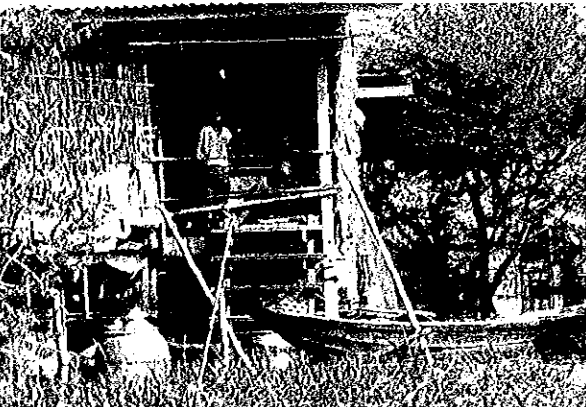
(100) 家の周りに水があるうちはできるだけ外出
は控えている
(Pathum Thani 中央(3.11))



(98) 水田に竿をたれ魚を釣る
(Ayuthaya 中央(3.14))



(10) 水がなくなるとまるで風景が一変する
(Pathum Thani 中央(3.11))



(99) 水に閉じ込められ水の引くのを待つ
(Pathum Thani 中央(3.11))



(102) この時期(雨季)はバンコク市内も水が溢れ、いたるところで洪水になる
(Bangkok 中央(3.1))

〈 実り・刈取り 〉

(103~105) 雨季がすぎると、いままでの緑が黄金色に変わり、穂は垂れてくる。みのりの季節だ。

東北・北部の地域では大部分が雨季作だけだから、作付けも、刈取りも、ほぼ同じ時期に行なわれるが、タイ国全体からみれば、いつでも、どこかでは刈取りの時期をむかえていることになる。みのりのシーズンという感覚はうすい。

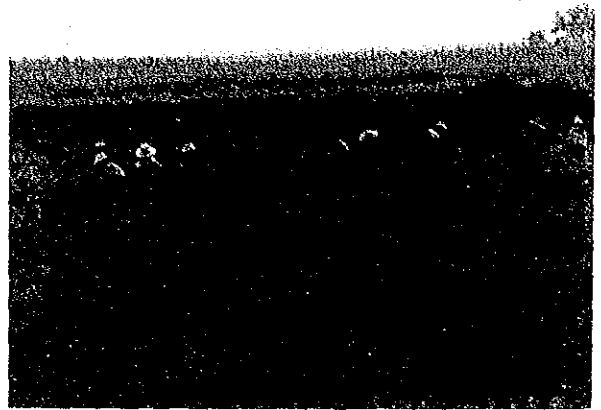
(106~120) みのりの時期をむかえると、十分に熟したものから刈取りが行なわれる。家族労力を主体とした刈取りも、田植えと同じように出稼ぎに出た人々も帰ってきて手伝うことが多い。どうしても足りないときは、近くの農家に応援を求めたり、雇傭したりする。

日本では刈取り時期は秋で気温も下るが、ここでは年中暑い。太陽の日射しの強い野外作業では、刈取りに限らず休憩場所が欲しくなる。水田の適当なところに休憩舎を設けたり、大きなビーチパラソルを立てている風景は各地にみられる。

刈取りは地方によってちがうが、一般に高刈りで、地面より30cm内外高い所から刈るのが多い。刈取り時期になっても水の引かない所では、舟を使って少しずつ移動し乍ら刈り取ったものは舟に積んで運び出す。又腰まで水に浸って刈取る姿も見える。



(103) 実りの秋、雨季がすぎると黄金の波がつづく
中央・タイ
(Pathum Thani 中央 (3.11))



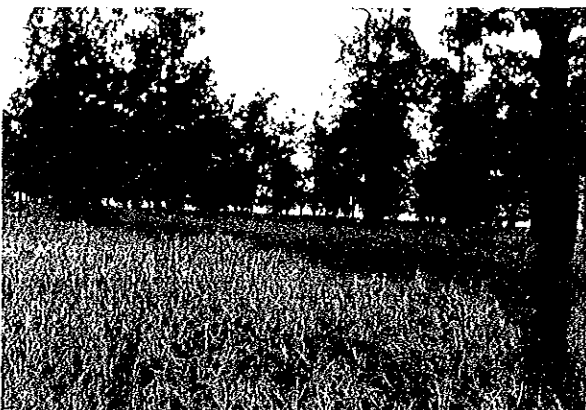
(103) 刈取りを早く終って二期作の準備をするため、人を雇って刈る 中央・タイ
(Phatum Thani (3.11))



(104) 間もなく刈取りが始まる 東北・タイ
(Buri Ram (2.6))



(107) 田んぼの各所に設けてある休ケイ所は朝・昼の食事から休憩にいたるまで貴重な存在だ 東北・タイ (Chaiyaphum (2.3))



(108) 東北・タイの実り 植付け時期の差が刈入れの時期を大きく変えている 東北・タイ
(Surim (2.13))



(109) 家族総出で刈取り作業に精を出す 中央・タイ
(Pathum Thani (3.11))



(10) 刈る (Pathum Thani 中央 (3.11))



(12) 浮稲地帯の刈取り 舟の上で刈る
(Ayuthaya 中央 (3.14))



(10) 束ねる (Pathum Thani 中央 (3.11))



(13) 刈跡の稲株 (Nakhon Pathom 中央
(3.9))



(11) 束を置く (Pathum Thani
中央 (3.11))



(14) 浮稲 (Ayuthaya 中央 (3.14))



(10) 水田の休憩所 (Ayuthaya 中央 (3.14))



(11) Ahni Ahni による穂摘み
(Phatthalung 南部 (4.8))



(12) 浮稲の刈取り 浮稲は全面的に倒伏している
ので刈取りも大変な仕事の一つである
(Ayuthaya 中央 (3.14))



(13) Ahni Ahni の使い方 一本一本の穂を摘
みとる作業は大変な仕事である
(Phatthalung 南部 (4.8))



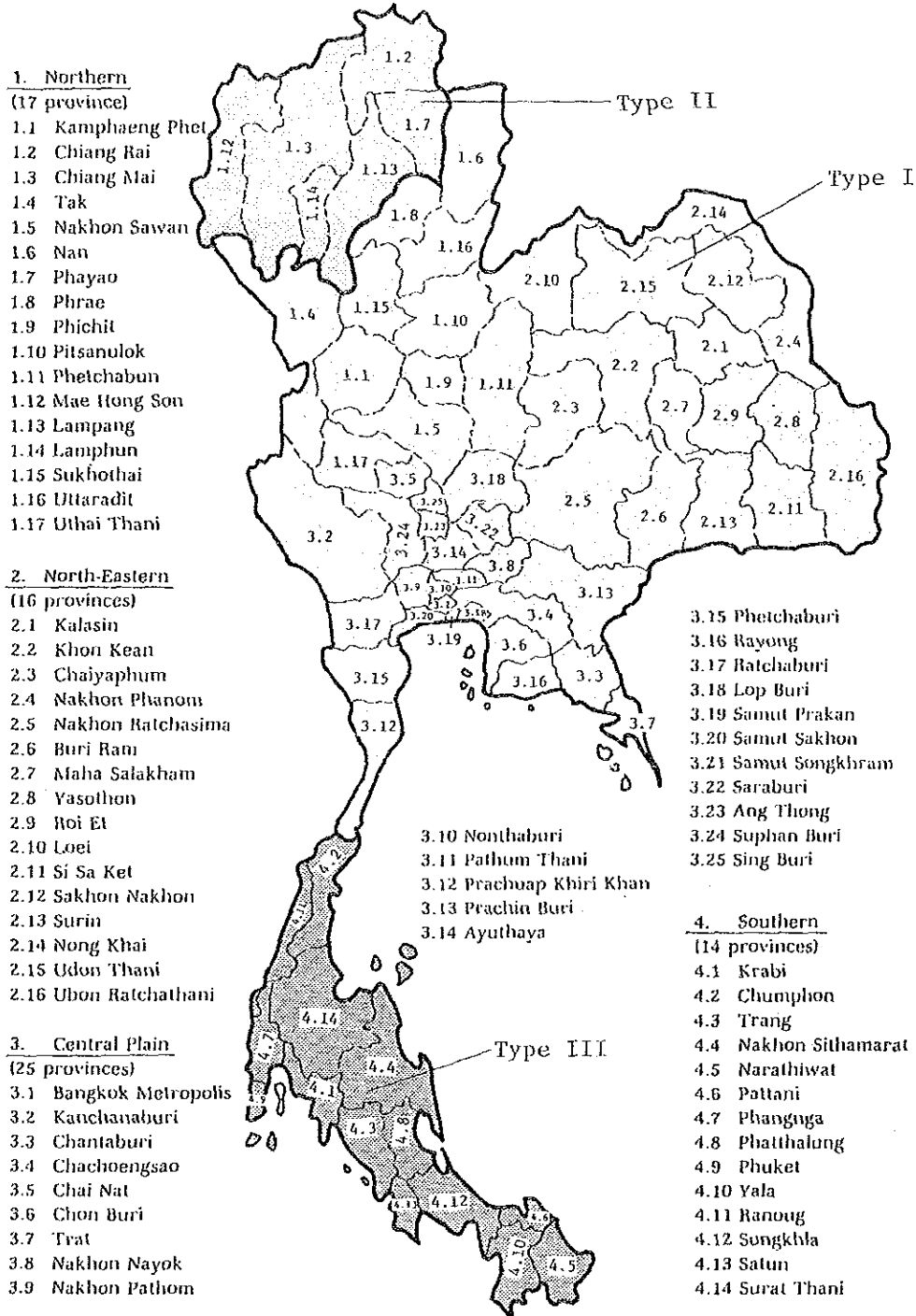
(14) 腰まで水に浸って刈取り
(Ayuthaya 中央 (3.11))

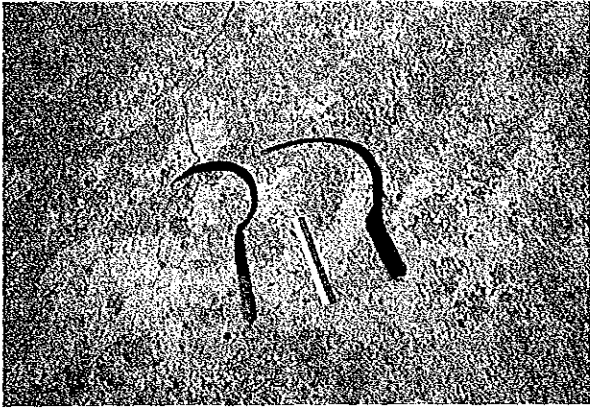


(15) Ahni Ahni による刈り跡
(Phatthalung 南部 (4.8))

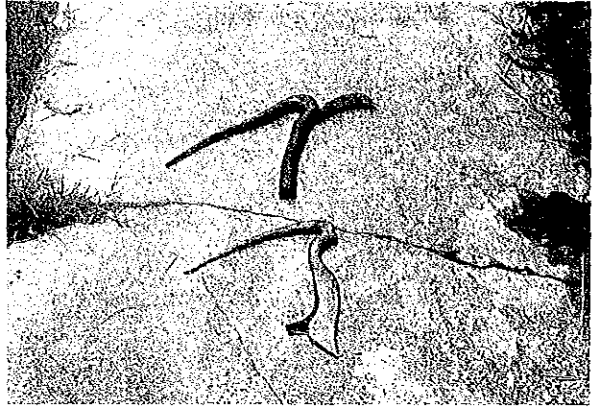
(121~126) 刈取る鎌はいろいろあるが、大きく分けて3つに分類できる。一つは最も広い地域で利用されているもので、仮にⅠ型とすると、中央・タイ、東北・タイ、北・タイの一部にまで分布している(写真121)。次いでⅡ型は北・タイの一部で使用され、長い稲を根元から刈取る習慣のある地方で使われている(写真122)。Ⅲ型は Ahni Ahni と呼ばれ南・タイに多く使用されている。その他、(写真123)にみられるような特殊なものもあるが、いまは使用例は少くないとされている。これら鎌の利用分布を示すと地図のようになる。

Fig.5 Distribution of Sickle for Rice harvesting

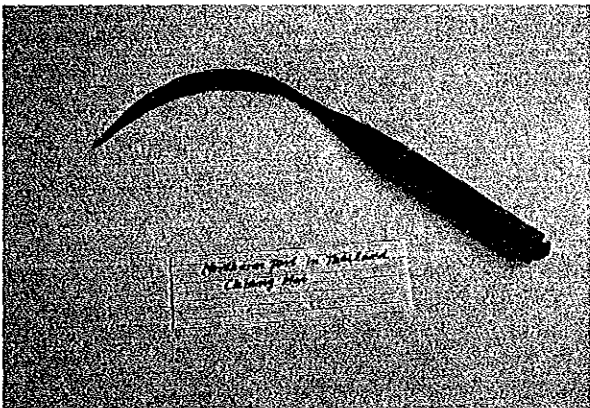




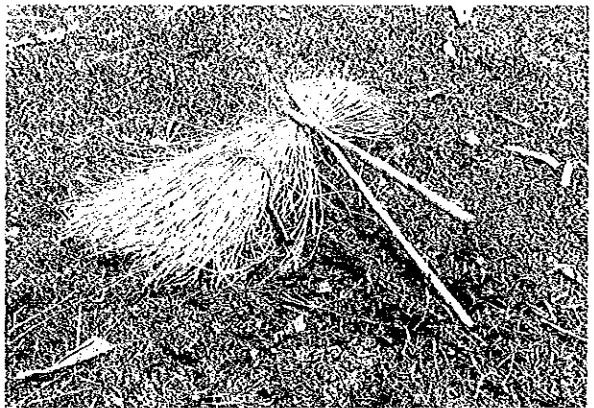
(21) 鎌 (I 型) (Surin 東北 (2.13))



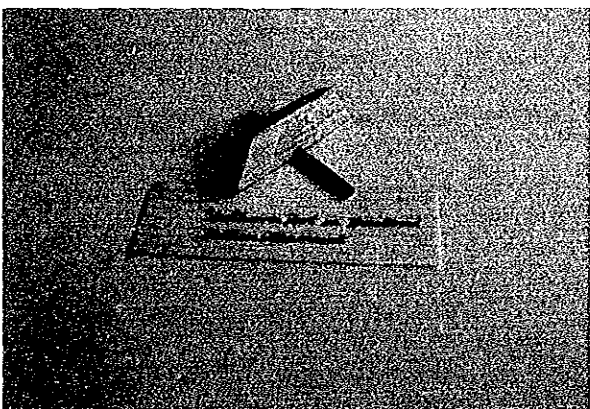
(24) 鎌 倒伏した稲を刈るのに用いられた古い鎌
(Phutthalung 南部 (4.8))



(22) 鎌 (II 型) (Chiang mai 北部 (1.3))



(25) 鎌とマイヒープ (Roi 東北 (2.9))



(23) 鎌 (III 型) Abni Abni
(Nakhon Sithamarat 南部 (4.4))



(26) 稲刈り跡と子供 (Chaiyaphum 東北 (2.3))

